

製品名: MRCK α ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab14081**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300,ELISA 1:2000-1:20000
分子量	200kDa

抗原情報

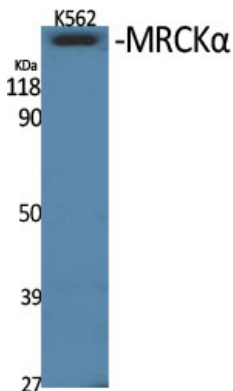
遺伝子名	CDC42BPA CDC42BPA; KIAA0451; Serine/threonine-protein kinase MRCK alpha; CDC42-binding protein
別名	kinase alpha; DMPK-like alpha; Myotonic dystrophy kinase-related CDC42-binding kinase alpha; MRCK alpha; Myotonic dystrophy protein kinase-like alpha
遺伝子 ID	8476.0
SwissProt ID	Q5VT25
免疫原	ヒト MRCK α の内部領域由来の合成ペプチド。アミノ酸範囲: 580-660

背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、セリン/スレオニンタンパク質キナーゼファミリーのメンバーです。このキナーゼは複数の機能ドメインを有し、そのキナーゼドメインは筋強直性ジストロフィータンパク質キナーゼ (DMPK) のキナーゼドメインと非常に類似しています。また、このキナーゼは Rac 相互作用結合 (CRIB) ドメインも有し、CDC42 に結合することが示されています。CDC42 誘導性の末梢アクチン形成を媒介し、細胞骨格の再構築を促進する CDC42 下流エフェクターとして機能すると考えられます。複数の選択的スプライシングを受けた転写バリエーションが報告されており、そのうち 2 つの完全長が報告されています。[RefSeq 提供、2008 年 7 月],触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。補因子: マグネシウム。酵素調節: キナーゼドメインと負の自己調節性 C 末端コイルドコイル領域との相互作用により、不活性な閉じた構造を維持します。ホルボールエステル結合部位へのアゴニストの結合はこれを阻害し、キナーゼドメインを解放して N 末端を介した二量体形成とトランスオートリン酸化によるキナーゼ活性化を可能にする。機能: 細胞骨格再構成において CDC42 の下流エフェクターとして作用する可能性がある。MYPT1 の調節、ひいては MLC2 のリン酸化を介して、細胞侵入に必要なアクチンミオシンの収縮に寄与する。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属する。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属する。AGC Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。DMPK サブファミリー。類似性: AGC キナーゼ C 末端ドメインを 1 つ含む。類似性: CNH ドメインを 1 つ含む。類似性: CRIB ドメインを 1 つ含む。類似性: PH ドメインを 1 つ含む。類似性: ホルボールエステル/DAG 型ジンクフィンガーを 1 つ含む。類似性: タンパク質キナーゼドメインを 1 つ含む。細胞内局在: 点状に分散して分布し、細胞周縁部、特に細胞先端部と細胞間接合部に集中する。この濃度は PH ドメインに依存する。サブユニット: コイルドコイル領域を介してホモ二量体およびホモ四量体を形成する。GTP 結合型 CDC42 とは強く相互作用するが、GDP 結合型 CDC42 とは強く相互作用しない。組織特異性: 心臓、脳、骨格筋、腎臓、膵臓に豊富に存在するが、肺や肝臓ではほとんど発現しない。、

研究分野

画像データ



MRCK α ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析